



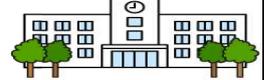
学校教育目標

刮目 ～刮目の生徒・刮目の教師～

～かけがえのない自己の人生に目を開き、
たくましく自己実現していく生徒の育成～

校訓

自主・剛健・高雅



東金市立東金中学校 学校だより第53号

令和6年3月14日発行 文責：副校長 久我 和廣

卒業証書授与式での校長式辞から

(一部抜粋)

皆さんとは、1年間学校生活を共に過ごしてきました。一人一人が様々な場面で活躍し、日々成長していく皆さんの姿に頼もしさを感じていました。私自身、多くの思い出を心に刻むとともに、皆さんと出会えたことに感謝しています。

東金中学校の合い言葉である「あ・じ・み・そ」を意識しながら、最上級生として、学校のリーダーとして、下級生の良き手本として活躍してくれました。皆さんが入学した令和3年は、コロナ禍2年目で、まだ様々な制限がある年でしたが、特に、この1年間は、コロナ前の活動が戻り、生徒会活動や部活動に、自主的な取り組みをすると同時に、運動会や合唱コンクールでは、最上級生としての自覚を胸に、下級生をリードし、学校全体をより良く発展させてくれたことに、あらためて賞賛の拍手を送ります。ありがとうございました。その中でも、私の中で印象深く残っているのが運動会、修学旅行、そして合唱コンクールです。

運動会では、「疾風怒濤～時代の新たな波となれ～」のスローガンのもと、皆さんがリーダーシップを発揮し、東金中学校の団結を創り上げてくれました。

歴史ある京都・奈良の修学旅行では、様々なアクシデントはありましたが、本校の合い言葉「あ・じ・み・そ」を意識して行動し、また、班別行動等では、京都の人の温かさに触れ、心に残る思い出を作ることができました。

合唱コンクールでは、学級が心を一つにして創り上げた歌声は、多くの人々の心を震わせました。下級生は、皆さんの歌声を聞き、1年後、2年後の姿を思い描いたと思います。私も胸が熱くなったのを覚えています。

この1年間、皆さんが残した足跡は、後輩に受け継がれ、そして、さらに発展するものと信じています。

本校の3年間で学んだことや、友と創った数多くの思い出は、皆さんにとって貴重な財産になることと思います。いつまでも大切にしてください。

卒業は「別れ」ではありますが、この3年間で培ってきた力を土台として、さらに高いところを目指すための旅立ちの日でもあります。その旅立ちに際し、日本を代表する電機メーカー「パナソニック」の創業者である松下幸之助さんの言葉を送ります。

「志を立てて事を始めたら、少々うまくいかないとか、失敗したというようなことで簡単に諦めてしまってはいけません。一度や二度の失敗でくじけたり、諦めたりするというような心弱いことでは、本当に物事を成し遂げていくことはできない。」

皆さんは、中学校生活の中でたくさんのごことを学びました。運動会や合唱コンクール、委員会活動、部活動、グリーンスクール、修学旅行、そして、高校入試。その中で、苦しかったことや、あきらめかけたこともあったかと思いますが、クラスの仲間、部活動の仲間と励まし合い、先の見えないゴールに果敢に挑戦してきました。その結果、達成感や満足感といった何事にも代え難いすばらしいものを得ることができました。人生は選択の連続だとも言われています。これから先、人生を左右するような大きな選択もあるかもしれません。やりたくないことや、自信がなく失敗するようなこともあるかもしれませんが、そんな時に、消極的な生き方では人生は開けないし、運もつかめません。今は難しくても出来ないかもしれませんが、いつかは必ずやってみせるという前向きな気持ちをもって努力を続ければ、きっとその先には、今までに経験したことのない、深い感動を得ることが出来ます。

これから先、東金中学校で学んだことに、自信と誇りをもつとともに、自分を信じ、自らの可能性に挑戦し、志を高くもって、予測困難といわれるこれからの時代で活躍できる人に育ってほしいと心から願っています。

在校生は、卒業生が築いてくれた伝統を大切に受け継ぎ、さらに発展させてください。

令和6年3月8日
東金市立東金中学校長 大矢 孝之